LOGISTICS NOW

平野ロジスティクス
空調仕様"+7 COOL"が本格稼働

航空貨物の空港間 OLT 輸送（保税転送）のリーディング・カンパニーである平野ロジスティクスは6月、同社のオリジナル・トレーラー"+7"に空調機能を搭載した"+7 COOL"を本格稼働させた。さらに、年明けには+1の空調仕様"+1 COOL"も納入予定で、温度管理輸送体制をますます増強させる。

マイナス30℃～プラス20℃の温度管理

本誌昨20年12月号の当コーナーで紹介した平野ロジスティクスの"+7 COOL"がこの6月から本格稼働した。

"+7 COOL"は、同社オリジナル・トレーラーの+7に冷凍機メーカーであるサーモキング製の冷凍ユニット"SLXi200"をトレーラー前部に装着した、空調管理機能を搭載したモデルだ（上写真）。

ベースとなる+7は2016年3月、日本では初となる航空貨物用ULDを2段積みできる超低床タイプのセミトレーラー車で、オランダのユトレヒトに本社を置くECK社が車両を製作した。

最大の特徴は荷台部分が2層構造（ダブルデッカー）となっていることで、上段に96インチULD×4基、または LD3コンテナ×8基と、下段にLD3コンテナ×5基を搭載できる点にある。また、上段部へのコンテナ搭載のためにパワーゲートを装備しているほか、ベルトコンベヤーにより上段部の移動は自動化されている。この画期的な2段積みトレーラーの登場が、日本の航空貨物陸送に変革をもたらしたことは記憶に新しい。

+7 COOLに搭載されるサーモキング製の冷凍ユニットは専用エンジンを搭載するサブエンジン型。トレーラーの走行状態に左右されないため、荷台部分は上段下段ともにマイナス30℃～プラス20℃までの温度管理が可能で、非走行時の温度管理も可能となるなど、総合的な医薬品／生鮮食品／冷凍食品などの温度管理輸送に最適だ。

国内最高峰のカーレースとして知られる"スーパー耐久シリーズ"。平野ロジスティクスは、同レースのワンメイクタイヤのサプライヤーである韓国ハンコック製のタイヤを群馬の工場からレース会場まで年間輸送する。今季のスーパー耐久シリーズは3月20日にツインリンクもてぎで開幕を迎えた。直近では5月21～28日の第3戦（富士スピードウェイ）が行われ、第4（オートポリス）、第5（鈴鹿）。最終第6戦（岡山）と続く。

医療現場で働く人たちに感謝の気持ちを込めて

平野ロジスティクスは、新型コロナウイルス感染拡大が続く中、感染症対応に最前線で尽力している医療従事者へ感謝のメッセージを伝えるステッカーを、一部車両に期間限定で貼り付ける。赤／青（右画像）／白／黄色など、いくつかのカラーバージョンを製作する計画で、「応援ステッカーを見て、医療従事者の皆さんの苦労を思い出して欲しい」（益子取締役）としている。

今回の+7 COOLは、航空会社からの要望が多かったため、開発に至ったという経緯がある。益子研一・取締役営業本部長は、「空調機能を持つトラックの需要は、新型コロナ以前、月に2台程度だったものが、いまでは毎日2、3台が必要になっている状況です。特に成田～羽田間でULD単位の空調輸送に関する依頼が多くなっています」と、昨今の空調輸送ニーズの増加を実感している。

空調機能を持つ"+1 COOL"も導入へ

ただ、この+7は一度に大量のULDを輸送できるメリットがある一方で、ルーズ貨物に対応できないというデメリットがある。そこで平野ロジスティクスでは、ルーズ貨物の空調輸送需要にも対応すべく、新たに"+1 COOL"を開発している。

+1は大型トラックと比べて96インチULDを1台多く搭載できる同社オリジナルのセミトレーラーだが、その空調仕様が"+1 COOL"となる。この+1 COOLはルーズ貨物はもちろん、エンバイロテイナーやシーセーフ（CSafe）の温度管理コンテナが搭載可能で、リアドアの施錠も遠隔操作で対応するなどセキュリティも万全だという。

益子取締役は、「ルーズ貨物がある場合は+1 COOL、ULDのみの場合は+7 COOLで一気に大量輸送と、お客様の荷姿によって、どちらの輸送ニーズにも対応できるように2タイプの車両体制とします」と語る。空調仕様のトレーラーを2タイプ用意することで、コロナ禍による航空会社からの空調トラック輸送の需要増加に対応していく方針だ。

さて、温度管理輸送を強化している平野ロジスティクスだが、運行する車両はトレーラーが50台以上、トラックは200台以上にのぼる。

同社ではこれらすべての車両にGPSを搭載して営業車両の位置情報を把握、管理できる動態管理システムを導入しているが、運行管理における新たな取り組みとして、6月から一部トラックにドライブレコーダー一体型カメラモニターの導入を計画している。「車両の前、後、横に搭載するだけでなく、庫内の前部、後部にひとつずつ、計5個のカメラを搭載する」（益子取締役）というものだ。

「クラウドからドライブレコーダー動画を取得するツールにより、トラックの場所、状態、荷積みだけでなく、庫内における貨物の状況／温度管理状態／荷崩れなどがリアルタイムで確認できるようになる。弊社にとってもお客様にとってもメリットしかありません」（同）としている。

このほか平野ロジスティクスでは、日本国内で行われる自動車レースの"スーパー耐久シリーズ"で使用されるワンメイクタイヤ（韓国ハンコック製）のレース会場向け輸送や、4月、5月にはアントノフチャーター便の空港間輸送を手掛けるなど、コロナ禍にある中で、温度管理輸送サービスの強化だけでなく、積極的な業容拡大を展開している。